



金融財政

2008年(平成20年) 2月21日 (木) 第9896号 (購読料金 月額税込み5,565円)

幸福の条件



お茶の水女子大学教授 篠塚英子

○
+
○
どうしてこんな簡単なことに気付かなかったのか。クライヴ・ハミルトンの本を読んで、今ごろ恥

じ入っている(「経済成長神話からの脱却」アスペクト)。多くの国の文献や調査を渉猟した結果、彼は次の結論に至る。

「国民所得があるレベル以上になると、豊かな国の人々も貧しい国の人々より幸福というわけではなくなる。どこの国においても、裕福な人々が普通の収入の人々よりも幸せなわけではない」

満足や幸せを規定する心理的要因として最も高いのが、離婚、子どもの誕生や死、病気で、25%が説明できる。だが「驚いたことに所得や物質的富で説明できるのはわずか10%」である。

幾つもの具体例が説得的である。日本の例に戻すと、年収2千万円の人と500万円の人で、高収入の前者の方が満足度も高いとは言えない。私自身も日銀役員を退任後、一時フリーターになり、同様の所得差を経験した。だが、所得が多い時の方が満足や幸福度が高いとは、断じて言えない。昭和30年代の日本が貧

しかつた時代の生活を描いた、山崎貴監督「ALWAYS 三丁目の夕日」が日本アカデミー賞最優秀作品賞(2006年)を受賞したことも、このテーマはどこかで関係がありそうだ。

小泉純一郎元首相は、政権5年間(01年から06年)の政治経済のスローガンを「改革なくして成長なし」と掲げた。中立たるべき政府の「経済財政白書」のタイトルを、5年間まったく同じ「改革なくして成長なし」で通し、プロバガンダ化したのは異常事態である。

現在、この小泉政権の改革が奏功して日本は緩やかな景気回復過程にあるという。しかし、その改革のスピードが止まっていると国内外から批判も多い。大田弘子経済財政担当相は、日本の世界経済における順位低下に警告を発している。

だが内閣府の07年「国民生活に関する世論調査」によれば、生活に対する国民の満足度は小泉政権時代に低下を続け、06年にいったん上昇したが、07年には大きく下落した。

成長を不要だとは言わない。だが、成長が満足を伴わないことにもしつかりと対峙して政策実行を、と願うのだ。

CONTENTS

- 国際経済 一丸で国力強化へ、ソフトランディング目指す(鈴木貴元)
 - 08年中国経済の展望と胡錦濤政権の課題… 2
- BANCO (渡部 亮) …… 3
- 照一隅 日本版SWFの愚劣(溪粒子) …… 5
- 解説
 - 経済財政運営で初の中期指針—福田政権… 8
- インタビュー
 - マン・インベストメンツ証券の林秀彦社長12
- あと・らんだむ (神崎倫一) ……14
- マーケットレーダー
 - デカップリングされる日本(小池正一郎) …15
- インタビュー 大手信託銀行トップに聞く①
 - 常陰均・住友社長…16
- インタビュー 大手信託銀行トップに聞く②
 - 田辺和夫・中央三井社長…17
- 政経深層 過保護な金融政策(岡 憲策) …18
- 翔んでけスポーツ (谷口源太郎) ……19
- 世界の金融—西・東(シカゴ) ……20